

教育センター

センター長 福島 統

センター長・室長・教授	福島 統	医学教育学（教育開発室）
兼任・室長・教授	木村 直史 (薬理学)	医学教育学（医学教育研究室）
専任・副室長・教授	伊坪真理子 (内科学(消化器・肝臓))	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・准教授	川村 哲也 (内科学(腎臓・高血圧))	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・准教授	尾上 尚志 (脳神経外科学)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・講師	古谷 伸之 (内科学(総合診療部))	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・講師	石橋 由朗 (外科学)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・講師	鷹橋 浩幸 (病理学)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・副室長・教授	柏木 秀幸 (外科学)	医学教育学（教育開発室）
専任・准教授	中村真理子	医学教育学（教育開発室）
兼任・准教授	松島 雅人 (内科学(総合診療部))	医学教育学（教育開発室）
兼任・講師	柵山 年和 (臨床腫瘍部)	医学教育学（教育開発室）
兼任・准教授	大石 杉乃 (看護学科)	看護教育学（教育開発室）
兼任・室長・准教授	宇都宮一典 (内科学(糖尿病・代謝・内分泌))	医学教育学（卒後教育支援室）
兼任・室長・准教授	平尾真智子 (看護学科)	看護教育学（看護教育研究室）

教育・研究概要

平成11年4月に教学委員長を室長に医学教育研究室が学事部学務課内に設置され、複雑化する卒前

医学教育を教職協働のもとで進める体制が整えられた。平成14年4月には初年次教育の拡充のために、国領校に医学教育研究室国領分室が設置された。平成17年10月に教育センターが設置され、その中に医学教育研究室(木村直史室長, 伊坪真理子副室長), 看護教育研究室(平尾真智子室長, 山下紳子副室長), 卒後教育支援室(宇都宮一典室長, 佐々木英樹副室長), 教育開発室(福島 統室長, 柏木秀幸副室長)が置かれ、平成18年4月には教育センター事務室が設置された。平成19年4月に福島 統が教育センター長に就任した。センター長以外の専任教員は、伊坪真理子教授(2007年から)と中村真理子准教授(2010年2月から)である。

1. 平成20年度戦略的大学連携支援事業「東京都内4医療系大学連携によるカリキュラム開発と地域医療者生涯学習コース提供」の2年目を迎えた。この取り組みでは本学は、電子教材の開発とその共有化と大学IT関係職員の能力開発(Staff Development: SD)を担当している。電子教材開発では、基本的臨床技能教育教材、テュートリアル教材、CPC教材などの作成を行った。SDに関しては、「教材共有化のための著作権処理および教材開発・蓄積」(5月23日)、「教職員のマネージメント能力と実践力を兼ね備えた人材育成」(6月27日)、「機関リポジトリ」(10月10日)、「電子教材ライブラリの管理・運用」(12月21日)、「高等教育における情報リテラシー教育とe-ラーニング」(2月19日)の計5回を開催した。

2. 平成19年度特色ある大学教育支援プログラム「地域の教育力を活かす医療者教育-地域の教育力を大学に、大学の智を地域に」の補助対象事業として、医学科5年生「家庭医実習」、2年生から6年生対象の「プライマリケア・選択学外臨床実習」を実施した。これらの地域医療実習での学生の学習内容をレポートから抽出した結果、学生は、心理社会的側面、患者-医師関係、患者支援、生活支援、慢性期疾患マネージメント、多職種連携などを学んでいることが明らかとなった。また本取組の地域医療者へのFD活動として、「家庭医実習指導医FDワークショップ」(10月25日)と「在宅ケア指導

者FDワークショップ」(10月31日)を実施した。さらに、地域医療者(訪問看護師)を対象に東京都医師会と共催して「聴診セミナー」を4回、「緩和ケアe-Learning」、および「実践!!フィジカルアセスメント」7回を実施した。本年度はこの取組の補助最終年度であるため、英国キングス大学医学部のJohn Rees教授(医学教育学)と東京医科大学大滝純司教授(総合診療部)とによる取組についての外部評価が行われた。本取組3年間の成果と外部評価内容は報告書のまとめ、全国の医療系大学に送付した。本学の地域医療実習について、6月に開催された韓国医学教育学会で発表した。

3. 平成19年度地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」は、臨床疫学研究室が主体で活動し、教育センターはその支援を行った。

4. 多職種連携教育については、本学での実践を「Advanced Initiatives in Interprofessional Education in Japan」(Springer, 2010年)で紹介した。本学医学科での多職種連携実習は、1年次「福祉体験実習」、2年次「重症心身障害児療育体験実習」、「地域子育て支援体験実習」、3年次「在宅ケア実習」、4年次「病院業務実習」、5年次「チーム医療構築ワークショップ」と各学年に体験実習として体系的にカリキュラムに取り入れられている。なお、2年次の2つの実習は平成21年度から必修ユニットとして実施された。「チーム医療構築ワークショップ」は前年度までの「医療の安全教育ワークショップ」を引き継ぐもので、本年度は8回開催し、468名の参加があった。

5. 教育センターが担当している教育ユニットは、「医学総論I～IV演習」、「医療総論演習」、「ECE-II」、「家庭医実習」、「プライマリケア・選択学外臨床実習」、「福祉体験実習」、「重症心身障害児療育体験実習」、「地域子育て支援体験実習」、「在宅ケア実習」、「病院業務実習」、「チーム医療構築ワークショップ」である。

6. 教育センターが主管している委員会は、①教育センター運営委員会、②教育補助金検討委員会、③公開講座推進委員会、④e-ラーニング委員会、⑤テレビ会議運営委員会、⑥スキルス・ラボ運営委員会である。

7. 他大学との文部科学省科学研究費による研究は、「専門職連携協働」(基盤研究B:首都大学東京)と「日本の近代医学教育の独自性について歴史的視点からの研究」(基盤研究C:順天堂大学)である。

8. 学外での教育関係講演①杏林大学医学部客観試験問題作成技術習得ワークショップ「客観問題作成に当たっての基礎知識の解説」、「医学教育における評価のあり方」5月30日、②北里大学医学部教授会医学教育に関する特別講演「臨床実習教育の改善」6月23日、③平成21年度柔道整復師専科教員認定講習会「教育方法」7月19日、8月1日、8月2日(東京)、④東海大学医学部卒前医学教育ワークショップ「Advanced OSCEの動向」9月20日、⑤兵庫医科大学4年生講義「医療者コミュニケーション」、「医療事故」9月2日、24日、⑥全国柔道整復学校協会国家試験検討作業「客観試験問題の事後評価」10月12日・13日(大宮市)、⑦東京都医師会訪問看護ステーション連絡会平成21年度第2回研修会「循環器系の基礎知識」10月17日、⑧横浜市立大学医学部3年生医療コミュニケーション論II「医療者コミュニケーション入門」10月19日、⑨徳島大学教育GPシンポジウム「慈恵医大での多職種連携教育」10月23日、⑩杏林大学医学部客観試験問題作成技術習得ワークショップ「客観問題作成に当たっての基礎知識の解説」、「医学教育における評価のあり方」10月24日、⑪第10回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ「わが国の医学教育の現状」、「基礎医学と臨床医学の統合:カリキュラム的側面」12月26日、⑫平成21年度第2回江戸川区介護職のメンタルサポート研修「人格傾向と集団力学について」1月15日、⑬第36回理学療法士・作業療法士養成施設等教員講習会「教育方法論II」1月5日、14日、20日(東京)、⑭公開シンポジウム:地域の教育力を活かす医療者教育「医学科地域医療実習について」、「地域医療者FDプログラム」、「家庭医実習指導者FDワークショップ」、「在宅ケア実習指導者FDワークショップ」1月23日(東京)、⑮平成20年度戦略的の大学連携支援事業:地域医療教育フォーラム「当事業の概要の説明」、「地域医療実習:東京慈恵会医科大学」1月24日(東京)、⑯平成20年度戦略的の大学連携支援事業:多職種連携教育シンポジウム「慈恵医大の多職種連携教育」3月13日(東京)

「点検・評価」

平成21年度は、文部科学省の競争的教育資金である平成19年度特色GPと平成20年度戦略的の大学連携支援事業の2取組を実施した。昨年度が5取組であったことを考える、GP事業の負担は軽減された。教育への外部資金獲得は重要なことであるので、今後は外資金獲得に向けた努力が必要である。学内

教育に関して本年度は、学外実習を2つ（「重症心身障害児療育体験実習」,「地域子育て支援体験実習」）新設した。これにより、1年次から6年次にかけての体系的学外実習が完成した。今後はこの学外実習の教育の質の保証と運用の改善について検討していく必要がある。またe-ラーニング, スキルス・ラボ管理, テレビ会議などでは他部署連携の促進を図っていかなければならない。

研究業績

Ⅲ. 学会発表

- 1) Fukushima O. Hospital-based and community-based clinical education in Japan-What do medical students acquire in the place of learning? 25th Conference of Korean Society for Medical Education. Gyeongju-City, June.
- 2) 柵山年和, 小松一祐, 井上大輔, 福島 統. 緩和ケアのためのe-Learning. 第41回日本医学教育学会大会. 大阪, 7月.
- 3) 犬塚裕樹, 畑尾正彦, 伴信太郎, 安部好文, 大滝純司, 大野良三, 倉本 秋, 齋藤宣彦, 津田 司, 出口寛文, 中島宏昭, 福島 統, 藤崎和彦, 吉田素文. Advanced OSCE トライアル評価データ解析Ⅳ: 評価の信頼性. 第41回日本医学教育学会大会. 大阪, 7月.
- 4) 福島 統, 畑尾正彦, 伴信太郎, 安部好文, 犬塚裕樹, 大滝純司, 大野良三, 倉本 秋, 齋藤宣彦, 津田司, 出口寛文, 中島宏昭, 藤崎和彦, 吉田素文. 医師国家試験 OSCE についての提言. 第41回日本医学教育学会大会. 大阪, 7月.
- 5) 石橋由朗, 柏木秀幸, 尾上尚志, 清田 浩, 小松一祐, 福島 統. 術時清潔操作学習用教材の導入. 第41回日本医学教育学会大会. 大阪, 7月.
- 6) 福島 統. (宿題報告) 医学教育の新しい流れ. 第126回成医会総会. 10月. 東京.

Ⅳ. 著書

- 1) Fukushima O. Jikei University School of Medicine: An interprofessional medical education program. In Watababe H, Koizumi M eds. Advanced Initiatives in Interprofessional Education in Japan: Japan Interprofessional Working and Education Network. Tokyo: Springer, 2010. p.49-56.

Ⅴ. その他

- 1) 福島 統. (文献紹介) Strategies and interventions for the involvement of real patients in medical education: a systemic review. 医教育 2009; 40(2): 146.
- 2) 福島 統. (文献紹介) Medical students: professional values and fitness to practice. 医教育 2009; 40(3): 179.
- 3) 福島 統. (文献紹介) Generational changes and their impact in the classroom: teaching Generation Me. 医教育 2009; 40(3): 189.
- 4) 福島 統. (文献紹介) Elizabeth Anderson, Lucy Thorpe, David Heney & Stewart Petersen. Medical students benefit from learning about patient safety in an interprofessional team. Med. Educ. 2009; 43: 542-52. 医教育 2009; 40(4): 284.
- 5) 福島 統. (文献紹介) Joseph M Garfield, Frances B Garfield, Nathanael D Hevelone, Neil Bhattacharyya, Daniel F Dedrick, Stanley W Ashley, Eric S Nadal, Joel T Katz, Christine Kim & Aya A Mitani. Dvctors in acute and longitudinal care specialties emphasise different professional attributes: implication for training programmes. 医教育 2009; 40(5): 346.